



# 先進都市現地視察 ～那須塩原市における駅前図書館 及びまちなか交流センターを活かしたまちづくり～

群馬県 県土整備部 都市計画課

## ■ はじめに

群馬県都市計画協会では毎年、まちづくりに関する先進的な事業を行う関東近隣都県の都市を訪れ、事業に携わる自治体担当者から直接お話を伺い、群馬県内のまちづくりのヒントを得るため、先進都市現地視察を実施しています。

今年度は令和7年11月14日(金)、栃木県那須塩原市を訪問し、都市再生整備計画「黒磯駅周辺地区」に関連する施設である「那須塩原市図書館 みるる」および「まちなか交流センター くるる」を視察しました。

群馬県内でも都市再生整備計画事業を活用している自治体が多数あり、そうした担当者を含め11市町から27名と、多くの方にご参加いただきました。

## ■ 那須塩原市・黒磯駅周辺地区

栃木県北部に位置する那須塩原市は、平成17年1月1日に黒磯市、西那須野町、塩原町の1市2町が合併して誕生しました。黒磯駅周辺は、鉄道やバスなどの公共交通が結節する交通の要所であり、行政機能や商業機能が集まる地域です。しかしながら、旧西那須野町の東北新幹線「那須塩原駅」周辺への大型商業施設の立地に加え、人口減少や高齢化の進行といった社会的要因の影響により、黒磯駅周辺の古くからの商店街では空き店舗が増加し、いわゆるシャッター通り化が進行し、かつてのにぎわいが失われつつあります。

こうした状況に対し、自治体や地元住民も危機感を抱き、再生への機運が高まったことから、官民一体となったまちづくりがスタートしました。

## ■ 那須塩原市図書館 みるる

那須塩原市図書館「みるる」は、令和2年9月に開館し、約18万冊の蔵書を誇ります。建物の特徴として、周囲の景観に溶け込む「大きな窓」による開放的な空間と、駅前から街中へとつながる通り抜け可能な動線「みるるアベニュー」が挙げられます。

従来の図書館には、飲食禁止などの厳格なルールのもと、静かに過ごし、本を読んだり調べ物をしたりする場所という既成概念があります。しかし、「みるる」は「誰にとっても居心地のよい場所」を意識し、図書館や本に興味がない人や、特に目的のない人でも気軽に立ち寄れる空間づくりが特徴です。館内の随所にアート作品が展示されている点も魅力のひとつです。

館内には、利用者のニーズに応じて選べる多様な居場所が用意されています。気軽に使える可動式の椅子と机を備えたスペース、窓際で一人になれるソファ、静かな環境で読書や学習ができるサイレントラーニングスペースなどがあります。さらに、館内にはカフェがあり、指定されたスペースでは飲食も可能です。

視察当日も、時間帯によって高齢者や親子連れが多く利用する様子や、夕方には学校帰りの学生が集まる様子が見られ、さまざまな過ごし方ができる場であることを実感しました。



「みるる」外観



みるるアベニュー



まるで美術館のような館内



「くるる」外観

## ■ まちなか交流センター くるる

まちなか交流センター「くるる」は、黒磯駅前のにぎわい創出を目的として整備された施設で、令和2年9月に開館しました。建物は大きな屋根で覆われた開放的な空間が特徴で、屋内外を一体的に利用できる広場のような設計となっています。

「くるる」は、市民が気軽に集まり、交流できる場を目指しており、キッチンスタジオやフードコート、ステージ、音楽室、工作室、和室、キッズスペースなど、多様な機能を備えています。特に、チャレンジショップ制度を導入し、地元の飲食事業者が一定期間出店できる仕組みを設けることで、地域の新しいビジネスの芽を育てています。

「くるる」は、単なる交流施設にとどまらず、食や文化を通じて人と人をつなぐ拠点として、地域の活性化に大きく寄与していることを実感しました。

